

道徳



松尾 直博

東京学芸大学

2020年度版「かがやけ
みらい小学校道徳」編集委員

新教科書 「かがやけ みらい」に 込めた願い

●新しい教科書の誕生

「特別の教科 道徳」（道徳科）は、平成 30 年（2018 年）4 月より小学校では全面実施となった。道徳は教科化されて、それに伴い初めての道徳の「教科書」が誕生し、各学校で使用が始まっている。それからすぐに、令和 2 年度（2020 年度）から実施される新学習指導要領に合わせて、道徳科の教科書も再び検定が行われた。このように、道徳科においては新教科書への改訂作業は非常に短期間で行われた。

平成 30 年度版の道徳科教科書「かがやけ みらい」は、様々な新しい考え・工夫が取り入れられており、それについての評価も非常に高い。しかしながら、令和 2 年度版に向けて「かがやけ みらい」は、さらなる改訂が行われた。平成 30 年度版のよさを生かしながらも、よりよい教科書にしたいという編集委員の思いにより、様々な改訂が行われた。

●「多様性を前提とした問題解決能力の育成」を目指して

新教科書では、共通編集理念として「多様性を前提とした問題解決能力の育成」とした。「多様性」という言葉は、世界の教育の重要なキーワードであり、近年は日本においても聞かれるようになってきた。世界には経済的に豊かな子供もいれば、貧困に苦しむ子供もいる。グローバル化により、様々な文化的、宗教的、言語的に多様な子供が同じ地域で生き、学ぶ機会も増えている。発達のにも多様な子供を包摂する社会、学校も求められている。その未来の担い手が、今を生きる子供たちである。

現代社会の様々な問題を改善、解決し、自身の幸福、社会の幸福に貢献できる子供たちを育てることが、これからの教育に求められている。そして学校での道徳教育はその中心的な役割を果たすことが期待されている。「かがやけ みらい」の共通編集理念には、このような思いが込められている。

●「共に生きる、よりよく生きる」ために

「かがやけ みらい」は、このような共通編集理念のもと、「共に生きる、よりよく生きる」を基本方針として掲げている。他の道徳科の教科書も生命尊重を強調しているものが多いが、「かがやけ みらい」は、それを動詞の「生きる」という言葉を用いることで、観念的になりすぎず、子供たちが生きている毎日の生活と結びついた生



命を考えることを意識している。さらに「共に」という言葉で多様性への意識づけ、「よりよく」という言葉で「かがやけ みらい」という教科書名が示しているような未来志向への意識づけをしている。ただ生物学的な意味で生きるのではなく、多様な人と共に生きる、よく（正しく）生きることを考え、話し合うことが現代の道徳科には求められており、そのきっかけとなる教科書になればと願っている。

●つながりから生きることを考える

「かがやけ みらい」では、上記の基本方針をもとに、さらにそれを「命のつながり」「人のつながり」「時（文化）のつながり」「夢のつながり」という四つの視点からとらえて、教材を選定している。人間が「共に生きる、よりよく生きる」ことを可能にしているのは、様々なものがつながっているからである。現実世界は、この複雑なつながりで成り立っている。しかし、子供が学ぶ際には複雑すぎると理解するのが難しいため、それぞれの要素をバラバラにして学ぶこともある。生きることと直結する道徳について学ぶ場合は、子供にとって複雑になりすぎず、かつ現実世界の「つながり」について気づくことが大切である。「かがやけ みらい」では、子供でも理解でき、気づくことができるような「命のつながり」「人のつながり」「時（文化）のつながり」「夢のつながり」を含んでいる教材を選定することを心がけた。

●二分冊の教科書の強みを生かす

「かがやけ みらい」は、「きづき」と「まなび」という二分冊からなる教科書であり、それが強みである。「きづき」には発問は書かずに、挿絵や紙面構成を工夫し、教材そのものを子供が味わい、主体的に「きづき」を見つけられるようなものになっている。「まなび」には発問例を示し、書き込み欄を設けるなどの工夫をして、対話（自己対話、他児との対話、教材との対話など）を通して学びを深めるための効果的な紙面構成になっている。また、「まなび」の構成は内容項目ごとに大きくくりに見取ることができる配列になっており、子供が自分の成長を実感したり、教師が成長を把握したりしやすいようになっている。指導方法と評価の連動が、二分冊によって自然にできるような教科書になっている。

●深い学びを可能にする教材の選定

教材の選定は教科書のよさを決める最も重要な要素のひとつである。「かがやけ みらい」は、道徳の授業で長く使われてきた定番教材と、現代・未来に生きる子供たちに合った新しい教材とのバランスを十分に検討して構成されている。子供たちは思考の柔軟性があり、想像力も豊かである。子供の世界、大人の世界、現実の世界、ファンタジーの世界、外国の世界、現在の世界、過去の世界など、いろいろな世界を、思考の中で、対話の中で飛び回ることができるのが子供である。また、教材の形式も写真や絵から課題を発見するもの、コミック形式のものなど、多様な形式を用いている。この多様な教材内容・教材形式が、子供たちの主体的・対話的で深い学びを生むことが期待される。

共通編集方針、基本方針を基に、教材を選定し、編集を行った。「かがやけ みらい」には魅力的で、深い学びを生むような教材をそろえることができた。多くの子供たちが好きになり、考え、話し合い、深く学ぶことができる教科書となっていくことを願っている。



かがやけ みらい 小学校道徳

特色① 「かがやけ みらい」で育てる、「かがやく わたし」

「きづき」で主体性を育み、「まなび」で学習を深める
「二冊で一つの教科書」。

自己の考えを深める学習を積み重ね、子供たちの「これから」につながる学びを実現します。

↓各学年きづき p.2～3



ガイダンスページ
学習の全体像と、
実際の授業の流れが
一目で分かります。



各学年まなび p.5 →



きづき

教材から道徳的価値に
自ら「きづく」本。



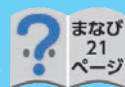
まなび

「きづき」をもとに、
対話を通して
「まなび」を深める本。



きづき
16
ページ

二冊の相互のリンクは
マークで明示



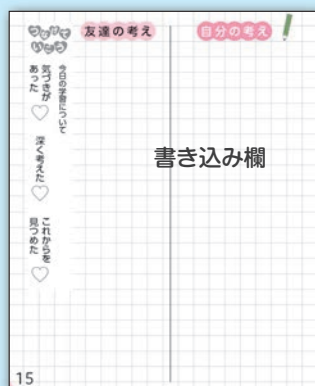
まなび
21
ページ

「まなび」でつくる「わたしだけの教科書」

子供自身が自分の成長を実感できる別冊です。同じ内容項目を見開き
でまとめ、学びを体系化。大きくくりな期間での成長が一目で見とれるよ
う構成しました。

書き込み欄と自己評価欄は、評価にも活用できます。

5年まなび
↓ p.14～15



↑自己評価欄を新設



共に生きる、よりよく生きる

多様化する社会の中で生きていく子供たちが、よりよく生きるための問題解決能力を育成するために、自他を尊重する態度を養う教科書を目指しました。子供たちが自分自身の道徳的価値観（ものさし）をもち、主体的に考えた自らの「きづき」をもとに、他者との対話を重ねて「まなび」を深めながら、多様な人々と共によりよい社会を築こうとする道徳性を養います。

特色② 多様性を認め合える教科書

いじめをなくすことや、周りの人との関係について、深く考えます。



多様な人々が登場する教材・挿絵を採用。自他が認め合う態度を養い、多様な人々が活躍する社会に向けた学習に配慮しました。また、「学級づくり」の視点から、いじめ対応のカリキュラムを企画し、教材配列を見直しました。



例：5年生「ともに生きる」対応教材
4月 学級づくり
6月 運転手さんのひとこと
6月 マリアン・アンダーソン
9月 言葉のおくりもの
11月 ベルフラワー
12月 しらんぷり
3月 たったひとつのたからもの

学級経営上、大切な6月、11月を中心に、繰り返し丁寧に学べるよう配置。

5年きづき p.100
「しらんぷり」↓



特色③ 社会へ、未来へ。道徳の学びをつなげる教科書

↓ 4年きづき p.128 「ちょっと待って」



情報モラル、スポーツ教育等の現代的な課題やNIEを取り入れ、「社会に開かれた教育課程」に資する教材を掲載しています。

↓ 4年きづき p.118 「姉妹で運ぶ物資と笑顔」



その他 まだあります、現行版からの改善点

①教科書のスリム化

継続教材も含め、教材を全面的に見直し。授業に必要な要素をおさえつつ、作品の世界観を変えることなく、教科書全体のスリム化を図りました。

②より読みやすい教科書に

全学年、教材文の文字が一回り大きくなりました。行間、ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン対応等、誰もが読みやすい工夫を随所に施しています。

③使いやすい場面絵

板準備が簡単にできるよう、場面絵を角形におさめ、コピーがしやすい箇所に配置しました。（指導書データ編には場面絵データを収録しています。）



5年生で約 3300 文字減、
6年生で約 4000 文字減！

全冊合わせて
328gの減量！

今日も学校 (旧)

今日も学校 (新)

↑文字サイズ
(原寸大)